3．平成９年度財団法人香川県埋蔵文化財調査センター発掘調査概況

(1) 県事業に伴う調査状況

1．調査の概要

平成９年度の県道・河川改修を除く県事業は、都市計画道、高松港頭土地区画整理、高松北署、県立医療短大、インテリジェントパークの整備建設事業に伴う発掘調査を実施した。

都市計画道については、高松市松並町で錦町国分寺綾南線の松並・中所遺跡の発掘調査を実施した。現道の拡幅工事であり、用地買収の問題や隣接地への進入路確保のための調査効率の関係で当初4,000㎡を対象としていたが、結果的には2,300㎡を発掘調査した。市街部に位置する道路の拡幅工事に伴う埋蔵文化財発掘調査がいかに困難であるのかを実感した調査となった。調査では旧香川郡条里の坪界線に接した鎌倉時代の集落跡を検出した。調査自体は、平成10年度も実施する予定である。

高松港頭土地区画整理事業関係の発掘調査は、高松市西の丸町の高松城跡と高松市鬼無町のＪＲ貨物操車場建設予定地の調査である。このうち高松城跡は、平成７・８年度に実施した高松城西ノ丸西外郭の発掘調査対象地に隣接した国労会館跡地の調査で、江戸時代後期以降の遺構面はすでに消失していたものの江戸時代前期の遺構面は部分的に残存していた。ＪＲ貨物操車場建設予定地の西打遺跡の調査は、平成８年度の継続事業である。本津川西岸の低地部の条里地割が良く残存する地域に対象地は位置し、鎌倉時代から室町時代にかけての地割りに規制された集落域のほぼ全面調査となった。

高松北署建設に伴う高松城跡の発掘調査は、平成10年度までの継続調査であり、今年度は上部攪乱層の除去及び一部の上面検出作業を実施した。対象地は鉄道病院の跡地であり、港頭地区関係の高松城跡の発掘調査対象地の南で通称浜街道とよばれる瀬戸大橋通の南に面し、生駒藩の西島八兵衛の屋敷地との関係が注目される一画である。

県立医療短大建設に伴う原中村遺跡は、高松市牟礼町に所在する。平成８年度に県道高松志度線の整備に伴い実施した原中村遺跡と隣接する。調査対象地は西側の谷筋と東部の尾根筋に２分され、西部の谷筋では弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての埋没河川を検出し、多量の土器が出土した。出土遺物には器表に線刻で絵状のものが描かれた壺も出土している。また東部の尾根線状では竪穴住居群を検出した。大型の張り出し付きの竪穴住居と小型の炉を持たない竪穴住居がセットで検出された。大型竪穴住居はいずれも整然と並んで営まれており、短期間の存続を窺わせるものであり、西側の埋没河川の時期と重複するものである。原中村遺跡は香川県の弥生時代後期の土器型式標準遺跡である原遺跡の隣接地でもあり、狭い平野部の集落として隣接する高松平野、三木町の平野部で展開する同時期の集落群との関係が注目される。

インテリジェントパーク整備事業に伴う空港跡地の発掘調査は、パーク内に建設が予定されている香川大学工学部建物予定地の調査である。隣接する南辺道路の調査で検出した弥生時代末から古墳時代前期の周溝墓群に隣接する箇所で、自然河川に面するような立地で陸橋状の施設を持つ周溝墓と考えられる遺構を検出した。同様の遺構は今年度の調査である横断道高松市内区間の林坊城遺跡でも検出しており、高松平野中央部の弥生時代から古墳時代初頭の墓制のあり方として注目されるものである。

2．遺跡別発掘調査結果の概要（県事業）

遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	遺構	遺物
松並・中所	高松市松並町	2,300㎡	平成9年10月～10年3月	掘立柱建物	土師器・弥生土器
西打	高松市香西南町 鬼無町	23,673㎡	平成9年4月～10年3月	溝竪穴住居掘立柱建物 溝井戸	土師器・磁器 ミニチュア銅製品
高松城跡	高松市西の丸町	300㎡	平成9年6月～9年7月	掘立柱建物、井戸	染め付け・瓦
高松城跡（高松北署）	高松市西内町	100㎡	平成10年3月～10年3月	柱穴・井戸	染め付け・瓦
原中村	木田郡牟礼町原	2,000㎡	平成9年4月～9年6月	竪穴住居・自然河川 掘立柱建	弥生土器物・溝 須恵器・土師器
空港跡地	高松市林町	6,500㎡	平成9年4月～9年11月	自然河川・周溝墓・溝	弥生土器・土師器 瓦器・瓦質土器

(2) 県道・河川関係発掘調査事業

1．調査の概要

平成9年度の県道事業及び河川改修事業の埋蔵文化財発掘調査は、平成9年4月1日に財団法人香川県埋蔵文化財調査センターと香川県教育委員会との間で締結した「埋蔵文化財調査契約書」にもとづき実施した。今年度の調査は、坂出市川津六反地遺跡、高松市兀塚遺跡、多肥松林遺跡、多肥宮尻遺跡、林下所遺跡、三木町尾端遺跡、大内町住屋遺跡、原間遺跡、楠谷C地区、高原地区、杖の端地区、白鳥町成重遺跡の9遺跡3地区で調査を実施した。当初計画と実施では、住屋遺跡で当初予想を上回る竪穴住居跡数により若干の工程変更があったが、概ね当初計画とおりに調査を実施することができた。

県道富熊宇多津線及び城山川改修事業に伴う川津六反地遺跡の調査は2,866㎡を調査対象として、平成9年10月より平成10年2月までの5ヶ月間で実施した。対象地の内訳は県道部分で2,198㎡、河川改修部分で668㎡を測る。この調査では弥生～古墳時代の溝状遺構、中・近世の集落の調査を実施した。

県道三木国分寺線に伴う兀塚遺跡の調査は、平成7年度からの継続調査で、今年度は当初家屋退去部分の371㎡を調査対象としたが、用地の問題で338㎡の調査に変更になった。調査は平成9年4月より5月までの2ヶ月間で実施した。この調査では古墳時代と鎌倉時代の2次期の集落の調査を実施した。

県道太田上町志度線に伴う多肥松林遺跡の調査は、7,000㎡を調査対象として、平成9年4月より12月までの9ヶ月間で実施した。調査は掘削及び仮設工事を業者に請負わせる工事請負方式で実施した。この調査では弥生～奈良時代の複数の自然河川、弥生時代の堰状遺構、古墳時代の溝状遺構、平安時代の掘立柱建物群等を検出した。

県道太田上町志度線に伴う多肥宮尻遺跡の調査は、4,000㎡を調査対象として、平成9年4月より9月までの6ヶ月間で実施した。この調査では弥生～古墳時代の複数の自然河川、古墳時代の溝状遺構、中世ピット群等を検出した。

県道高松長尾大内線に伴う尾端遺跡の調査は、昨年度からの継続調査で今年度が最後の調査になる。今年度は家屋退去部分の947㎡を調査対象として、平成10年１月より２月までの２ヶ月間で調査を実施した。この調査では７世紀に遡る条里型の溝群、７世紀代の掘立柱建物群等を検出し、小範囲ながら大変貴重な成果をあげることができた。

県道大内白鳥インター線に伴う住屋遺跡の調査は1,275㎡を調査対象として、平成８年４月より８月までの５ヶ月間で実施した。この調査では古墳時代の竪穴住居跡43棟、奈良時代の帯金具等を検出し、大変貴重な成果をあげることができた。

県道大内白鳥インター線（大内白鳥インターチェンジ北部）に伴う原間遺跡の調査は5,173㎡を調査対象として、平成８年９月より平成10年３月までの７ヶ月間で実施した。この調査では自然河川中から縄文時代後期頃の約120本の杭群を検出した。

その他、四国横断自動車の側道で県道となる次の３路線の調査を実施した。中徳三谷高松線については、横断道高松中央インター予定地の一部である林下所遺跡の調査を200㎡実施した。水主三本松線については楠谷Ｃ地区20㎡、高原地区11㎡、杖の端（西谷遺跡）地区438㎡を調査した。大内白鳥インター線については前述の住屋遺跡の他、原間遺跡856㎡、成重遺跡811㎡を調査した。

２．遺跡別発掘調査結果の概要（県道・河川）

遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	遺構	遺物
川津六反地	坂出市川津町	2,866㎡	平成 ９年10月１日～ 10年２月28日	掘立柱建物・土坑・溝 河川	弥生土器・土師器 須恵器・瓦器・陶磁器
兀塚	高松市円座町	338㎡	平成 ９年４月１日～ ９年５月31日	掘立柱建物・土坑・溝	土師器・須恵器
多肥松林	高松市多肥上町	7,000㎡	平成 ９年４月１日～ ９年12月31日	竪穴住居跡 掘立柱建物・溝 堰状遺構・河川	弥生土器・土師器 須恵器・黒色土器 瓦器・円面硯
多肥宮尻	高松市多肥上町	4,000㎡	平成 ９年４月１日～ ９年９月31日	土坑・溝・河川	縄文土器・弥生土器 土師器・須恵器・瓦器 木製品
尾端	木田郡三木町 田中	947㎡	平成 10年１月１日～ 10年２月28日	掘立柱建物・井戸 土坑・溝	土師器・須恵器 陶磁器・土製管玉・瓦
住屋	大川郡大内町 川東	1,275㎡	平成 ９年４月１日～ ９年８月31日	竪穴住居跡・河川	弥生土器・土師器 須恵器・帯金具
原間	大川郡大内町 原間	5,173㎡	平成 ９年９月１日～ 10年３月31日	溝・土坑・杭群・河川	縄文土器・弥生土器 土師器・石器

(3) 横断道事業に伴う調査状況

１．調査の概要

四国横断自動車道のうち高松市内区間及び津田引田間建設に伴う埋蔵文化財調査は昨年度から開始され、本年度で２年目となった。本年度の当初計画では高松市内区間が約16,500㎡、津田～引田間が約65,000㎡を調査する予定であったが、用地買収・家屋撤去の遅れ、工事工程との調整、また予備調査の後に本調査に至らなかった遺跡や遺構面が２面確認された遺跡などがあり、当初計画とは異なる進行となった。

高松市内区間の本年度の調査面積は4,720㎡で、昨年度実績と合わせると全体（約50,000㎡）の16.8%が終了したことになる。一方津田～引田間については、本年度の調査面積は46,813㎡で、昨年度実績と合わせると全体（約160,000㎡）の33%が終了したことになる。

高松市内区間（中間町～前田東町）の埋蔵文化財発掘調査は、年度当初は香川郡条里Ｂ、上天神遺跡、東山崎・水田遺跡、前田東・中村遺跡の合計16,500㎡を実施する計画であったが、用地買収の遅れや工事工程との調整の結果、上天神遺跡、前田東・中村遺跡、林・坊城遺跡の３遺跡の発掘調査を実施した。

上天神遺跡については当初500㎡の調査を予定していたが、用地上の目処がついた箇所の190㎡について予備調査と工事立会を実施した。なお、上天神遺跡については、建設省四国地方建設局と日本道路公団四国支社との委託契約により実施した。

前田東・中村遺跡については、６ヶ月の期間で5,000㎡の調査を実施する予定であったが、10ヶ月の期間に変更し、4040㎡（延べ面積6,780㎡）の調査を実施した。

林・坊城遺跡については工事工程との結果、国道11号に面したインターチェンジの緑地帯で現状保存される箇所を除いたループ道路部490㎡の発掘調査を繰り上げて実施した。

津田引田間の調査の概要については以下のとおりである。馬篠地区はまず７・８月に尾根及び谷筋にトレンチを設定し、予備調査を実施したが、Ｄ地区の尾根において土坑１基を検出した。長軸２m、短軸1.8mの長方形で深さは0.35mの土坑で炭化物が多量に堆積していた。時期、性格は不明であり、Ａ～Ｃ地区では遺構・遺物は検出されなかったため、予備調査をもって本地区の調査は完了となった。

小砂地区においても６月に丘陵平坦地に２本のトレンチを設定し予備調査を実施したが、表土直下で岩盤を検出し、近年の削平地であることが確認されたので、本地区も予備調査を持って調査を完了した。

楠谷地区はＡ・Ｂ・Ｃの３地区で、そのうちＡ地区は本年度予備調査を計画していたが、保安林解除の手続きが整わなかったため次年度以降に延期した。Ｂ地区については昨年度の予備調査で遺構・遺物が検出されたため、本年度本調査を実施した。この地点の集落跡に関連した墳墓の存在が予想されたＣ地区については９月に予備調査を実施したが、遺構・遺物は検出されなかった。

高原地区は墳墓の所在が予想されたため９月に予備調査を実施したが、遺構・遺物は検出されなかっので、今回の予備調査を持って調査完了となった。

下屋敷地区は平成８年度に一部予備調査を実施し、本調査範囲を特定していたが、家屋撤去が遅れたため、本年度については、次年度初めからの本調査の準備（仮設施設の設置等）を行った。

別所地区は与田川東岸の丘陵部で、尾根筋にトレンチを設定し、まず予備調査を行った。その結果Ａ地区の尾根先端部で石棺の蓋石を検出した。その他溝状遺構が数条検出され、墳墓の周溝の可能性もあるため次年度以降尾根筋を中心に1,300㎡について本調査を実施する予定である。Ｂ地区の尾根筋においてもトレンチを設定して予備調査を行ったが、遺構・遺物は検出されなかったため、この地区については調査は完了となった。

杖の端地区は４月にまず平地部について予備調査を実施した。その結果対象地の両端の丘陵裾部においてピット等の遺構を検出したため、予備調査後引き続いて本調査を実施した。遺跡の名称については、杖の端と言う名称がすでに他遺跡に使用されていたため、こ

の地区の呼び名である西谷（にしやだに）という地名を遺跡名として採用した。本調査後東丘陵部についても予備調査を実施したが、遺構・遺物は検出されなかったため、この地区の調査は今回の調査ですべて完了した。

原間遺跡は昨年度に引き続き４月から予備調査を再開した。この地区の工事対象面積は約49,000㎡であるが、予備調査の結果西丘陵頂部からは古墳時代中期の古墳が確認され、東丘陵からは周知の遺跡である横穴式石室の他弥生時代の遺構が検出された。また中央の平野部では古川の隣接地は河川氾濫源となっていたが、それ以外の地域からは弥生時代～中世の遺構・遺物が検出され、約42,000㎡について本調査が必要と判断された。本調査対象のうち北部の約5000㎡については県主体の工事となったため県道建設事業として発掘調査を実施し、残りを公団事業として本年度と来年度に調査することとなった。

成重遺跡については昨年度の予備調査の結果、約28,000㎡の本調査が確定していたため、年度当初より本調査に着手した。

池の奥地区は12月に予備調査を実施した。その結果東側では弥生時代の集落跡が確認され、西側では中世の集落跡が確認されたため、予備調査終了後の１月から西側の中世集落跡の一部について本調査を実施した。なお遺跡の名称については、池の奥遺跡は東側の弥生時代集落跡にすでに用いられているが、西側は時代が異なる遺跡のため、近くの溜池の名称を用い善門池西遺跡という新しい名称を採用した。

法月地区は１月に予備調査を実施したが、遺構・遺物は検出されなかったため、今回の予備調査をもって調査は完了した。

鹿庭遺跡は７・８月及び10月に予備調査を実施した。その結果対象地中央部分で縄文時代と推定される土坑や中世のピット等が検出されたので、次年度以降に3,800㎡について本調査を実施する予定である。

黒羽地区は９・10月にまず予備調査を実施した。馬宿川東側に広がる平野部は砂礫の堆積が厚く、遺構・遺物は確認されなかったが、対象地東端の狭い丘陵部において弥生時代の集落跡を確認したため、引き続いて本調査を実施した。なお遺跡の名称については、黒羽は広範囲を指し示す地名のため不適当と考え、遺跡が所在する谷間を呼称する庵の谷を採用することにした。

以上の津田～引田間調査の大半は日本道路公団四国支社の委託を受けて実施したものであるが、楠谷地区20㎡、高原地区11㎡、杖の端地区（西谷遺跡）438㎡、原間遺跡856㎡、成重遺跡811㎡については香川県土木部により委託をうけて実施した。

２．遺跡別発掘調査結果の概要（横断道）

遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	遺構	遺物
上天神	高松市上天神町	190㎡	平成９年８・９月	溝跡	弥生土器
林・坊城	高松市林町	490㎡	平成９年10・11月	円形周溝墓 自然河川跡	弥生土器
前田東・中村	高松市前田東町	4,040㎡	平成９年10月～平成10年３月	掘立柱建物跡・溝跡 ピット・井戸跡	土師器・須恵器

遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	遺構	遺物
馬篠	大川郡大内町 馬篠	620㎡	平成 9年7・8月	土坑	なし
小砂	大川郡大内町 小砂	100㎡	平成 9年7・8月	なし	なし
楠谷	大川郡大内町 水主楠谷	1,578㎡	平成 9年7～9月	掘立柱建物跡・溝跡	弥生土器
高原	大川郡大内町 水主	11㎡	平成9年9月	なし	なし
金比羅山（下屋敷）	大川郡大内町 水主	100㎡	平成10年3月	—	—
別所	大川郡大内町 川東	44㎡	平成9年9月	墳墓（蓋石）	なし
西谷（杖の端）	大川郡大内町 川東	2,092㎡	平成 9年4～6月	掘立柱建物跡	土師器・須恵器
原間	大川郡大内町 原間	19,254㎡	平成9年4月～ 平成10年3月	竪穴住居跡 掘立柱建物跡・土坑 井戸跡	弥生土器・土師器 須恵器・木製品
成重	大川郡白鳥町 成重	14,650㎡	平成9年4月～ 平成10年3月	集石墓・周溝墓 竪穴住居跡 掘立柱建物跡	弥生土器・石器 土師器・須恵器 獣骨・土製品
善門池西池の奥	大川郡白鳥町 白鳥	3,566㎡	平成9年12月～ 平成10年3月	ピット・土坑・溝跡	弥生土器・土師器 白磁・鉄器・銅銭
法月	大川郡白鳥町 帰来	510㎡	平成10年1月	なし	なし
鹿庭	大川郡引田町 吉田	310㎡	平成9年6月	ピット・土坑	縄文土器・土師器
庵の谷（黒羽）	大川郡引田町 黒羽	3,978㎡	平成9年10月～ 平成10年3月	竪穴住居跡・溝跡 土坑	弥生土器・石器

(4) 国事業に伴う発掘調査事業

1．調査の概況

平成9年度の四国横断自動車道関係を除く国事業に伴って発掘調査を実施したのは、建設省の国道32号バイパス建設と国立善通寺病院の看護学校建設に伴う発掘調査である。

国道32号バイパスは、綾歌郡綾南町区間の綾南バイパスと綾歌町区間の綾歌バイパスに分かれる。今年度の当初は、香川県教育委員会が試掘調査で確認した綾歌町佐古川・窪田遺跡と綾南・綾歌バイパスの予備調査を併せて9,000㎡を対象として4月から翌年3月までの間で実施する計画であった。建設省四国地方建設局香川工事事務所との調整の結果、綾南バイパスの綾南町滝宮字中原と小野字白梅の予備調査、綾歌町栗熊西の予備調査を実施した後、佐古川・窪田遺跡の調査を実施することとなった。

綾南バイパス建設予定地では、小野字白梅で弥生時代後期の竪穴住居1棟を確認し、白

梅遺跡として発掘調査を実施した。その後、綾歌バイパス佐古川・窪田遺跡の東側に隣接する地区の予備調査をへて、佐古川・窪田遺跡の発掘調査を実施した。なお、佐古川・窪田遺跡の調査期間中で、香川工事事務所から依頼のあった綾歌バイパス綾歌町馬指地区と年度当初では用地取得ができていなかった綾南バイパスの予備調査も併せて実施した。

佐古川・窪田遺跡では、弥生時代前期から中期初頭にかけての円形・方形の周溝墓を多数確認した。周溝墓群は2群以上に分かれ各群が徐々に範囲を拡大していったことなどが読みとれる内容で、当時の集団構成等を知る上で貴重な成果を上げることができた。

国立善通寺病院看護学校建設に伴う旧練兵場遺跡の発掘調査は、昨年度からの継続調査である。平成9年度調査区は昨年度調査のⅡ・Ⅲ区の間に位置するⅤ区を主体とし、調査面積は前年度と同じ3,000㎡で4月～9月の間実施した。発掘調査では、昨年度検出した弥生時代後期の大型の溝の続きを確認するとともにその西側で竪穴住居・大型の掘立柱建物等を検出した。

2．遺跡別発掘調査結果の概要（国事業）

遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	遺構	遺物
白梅遺跡	綾歌郡綾南町	300㎡	平成 9年4月1日～ 9年5月1日	竪穴住居・溝	弥生土器
佐古川・窪田遺跡	綾歌郡綾歌町	6,844㎡	平成 9年5月24日～ 10年3月31日	周溝墓・竪穴住居・掘立柱建物・井戸・溝	弥生土器・ガラス 小玉・須恵器・土師器
綾南バイパス予備調査	綾歌郡綾南町	711㎡	平成 9年4月1日～ 9年5月2日 10年3月17日	竪穴住居・溝	弥生土器
綾歌バイパス予備調査	綾歌郡綾歌町	1,100㎡	平成 9年5月3日～ 9年5月23日 9年10月6日～ 9年10月16日 10年3月18日	溝・柱穴	弥生土器・土師器
旧練兵場遺跡	善通寺市仙遊町	3,000㎡	平成9年4月1日～10年3月31日	竪穴住居・掘立柱建物 溝	弥生土器 動物型土製品

香川県埋蔵文化財調査年報
平成９年度
平成11年２月28日　発行
編集　香川県教育委員会事務局文化行政課
高松市番町２丁目１番10号　ＮＴＴ番町ビル
電話（087）831－1111
発行　香川県教育委員会
印刷　㈱　成　光　社